

研究実施のお知らせ

2020年8月16日 ver.1.0

2022年4月14日 ver2.0

研究課題名

緑内障バルブ複数挿入症例の手術成績

研究の対象となる方

島根大学医学部附属病院および松江赤十字病院において、複数回の緑内障インプラント手術を受けられた方。

研究の目的・意義

緑内障とは、視神経が障害され視野（見える範囲）が狭くなる病気で、眼圧を低く保つことが緑内障における視神経の障害を遅らせる唯一の方法として広く認められています。治療法としては、薬物治療、手術治療がありますが、薬物治療で十分な眼圧下降が得られない場合に手術治療が選択されます。手術治療の中でも、緑内障インプラント手術は、シリコン製のチューブとプレートからなるバルブを眼球壁に留置する手術で、他の緑内障手術が不成功に終わった難治性の緑内障症例に施行されます。1回の緑内障インプラント手術だけでは眼圧下降が十分でない症例もあり、その場合、複数個の緑内障バルブを追加挿入する必要があります。当院および松江赤十字病院は全国でもトップクラスの緑内障インプラント手術施行施設であり、複数個の緑内障バルブを挿入した症例が多数あります。複数個挿入する緑内障インプラント手術症例の多数症例の報告は、海外では数報のみ報告があり、有効性が示されていますが、日本国内では報告が皆無であり、複数個の緑内障バルブ挿入を必要とした緑内障症例の臨床的特徴および術後成績を検討することによって得られる情報は、今後の日本における緑内障インプラント手術治療の発展において、重要な情報となります。

研究の方法

島根大学医学部附属病院または松江赤十字病院において、2010年7月から2024年5月までに、アーメドまたはバルベルト緑内障インプラント手術を複数回受けた方の診療録を調査します。調査項目は、年齢、性、緑内障病型、手術前後の眼球形態・機能計測測定（裸眼・矯正視力、等価球面度数、眼軸長、眼圧、使用点眼、視野感度、フレア、角膜内皮細胞密度、眼底写真撮影、網膜断層撮影、乳頭3次元解析等）です。これらの抽出された情報はリスト化した後、カルテIDと研究対象者の氏名を削除した後に、どのような症例（緑内障の病型・術前眼圧・視野進行度等）や要因によって

複数個の緑内障バルブ挿入が必要となるのか、また、そのような症例に複数個の緑内障バルブを挿入した場合、どの程度の眼圧下降が得られるのか等の手術成績や安全性を検討します。松江赤十字病院の症例に関する調査票は、カルテ ID と研究対象者の氏名を削除したのちに島根大学医学部眼科学講座に郵送します。

研究の期間

2020年10月12日～2025年5月31日

研究組織

研究代表者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部附属病院 眼科 杉原 一暢

参加研究機関

研究機関名	研究責任者
島根大学医学部附属病院 眼科	杉原 一暢
松江赤十字病院 眼科	松岡 陽太郎

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024年12月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院 眼科 杉原 一暢

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2284 FAX 0853-20-2278